

富士見市立本郷中学校だより

学校教育目標



よく考え、学び、求める生徒
豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
心身を鍛え、勤労と体験を重んじる生徒

「夢と感動と思いやりがあふれ、誰もが成長を実感できる学校」 第3号

夢に向かって生きる！



講師の千種さんと、講演のために吉田様に生けていただいたお花

校長 上堀 護

6月11日（金）開校記念日の5校時、開校50周年記念講演会の講師として、気象予報士で富士見市PR大使の千種ゆり子さんをお招きし、「夢に向かって生きる！～気象予報士な私の変わり者人生～」というテーマでご講演いただきました。この講演会は、50周年記念事業実行委員会の皆様によって企画され、昨年行われる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のために1年延期されていたものです。千種さんが本校卒業生だったことから実現した企画でした。

千種さんは、本郷中在校時はソフトテニス部、高校は女子サッカー部、大学では空手部に所属したそうです。中学生時代の写真やエピソードを交えつつ、ご自分の今までの歩みと現在のお仕事についてパワーポイントでスクリーンに映しながら、楽しくわかりやすくお話してくださいました。講演後は、各学年代表と座談会に出席いただきました。

ご自分を「かなり変わっていた」と話され、そのことを苦にもされなかった千種さん。そして、「夢」を今から具体的に決められる人もいれば、そうでない人が多いこと、「何にだってなれる」と考え、その都度思い描いた「夢」に向かってベストを尽くすことを、後輩たちに語りかけてくださいました（本日付 埼玉新聞6面県北・県西版に掲載）。

その凜とした生き方や考え方に、救われた生徒もたくさんいたのではないのでしょうか。

なぜなら、他人と違うことに対する一種の罪悪感や、具体的な夢を持っていないことへの後ろめたさを感じている生徒が少なくないからです。中学生という多感な思春期にあっては、「自分は何者なのか（アイデンティティ）」への模索と同時に、「他人からどう見られているのか」を気にしがちです。特に、SNSの普及により、異質な者として排除されることを極端に恐れる若者像は、現代ならではの現象でしょう。

「自分には良いところがある」という自己肯定感が揺らいでしまうと、自分の選択肢にも自信が持てません。中学卒業後の進路選択も同様です。「こんなにいいところがある」と言われるだけで、あるいは熱中していることに理解を示してやるだけで、子どもの心に自己肯定感が育ちます。反抗期を迎えて叱りたくなる時も多いと思いますが、注意7割に対して、承認3割以上を心がけるだけで、お子様もきっと自信が持てると思います。

今回の講演会は、開校50周年記念事業実行委員会の皆様のご尽力で実現できました。開催に当たっては、感染防止のため3年生だけを体育館に入れ、1,2年生は各教室のモニターにMicrosoft Teamsを接続して視聴させました。多くの方々と本市のバックアップで実現できた実り多き講演会。皆様からお力添えをいただき、心より感謝申し上げます。